

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズサポート・きらら		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 3日		2025年 11月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2025年 11月 3日		2025年 12月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「社会福祉法人 横浜共生会」に所属していることで、学齢期だけではなく、そのご利用児の将来に繋がる支援という視点で同じ法人内の他事業（生活支援事業や相談支援事業）と連携を図り、トータル的な支援がおこなえること。	ご利用児の成長と共に変化する生活スタイルに伴う困りごとや将来に対する不安など保護者のニーズに応えるため必要に応じて相談支援事業に繋げることもおこなっている。	同じ法人という強みを生かし、生活支援事業や相談支援事業と定期的目付適宜ご利用児の支援について情報共有し、より充実した支援になるよう取り組みをおこなっていく。また、法人内から専門性の高い相談員を起用することにより本児理解を深めることもおこなっていく。
2	専門性の高い療育がおこなえること。 言語聴覚士・心理担当職員・児童指導員5年以上のスタッフの専門職だけでなく、介護福祉士・精神保健福祉士・保育士・強度行動障害基礎研修修了者等、スタッフ全員が専門的資格を有しており、それぞれの専門性を生かしながら支援することができる。また、保育士でもある仕事を担当する専門職による工作活動もおこなっている。長いキャリアの経験豊富なスタッフが多く幅広い年齢層でご利用児の特性に合った支援ができる。	毎日おこなう打ち合わせと振り返りで情報を共有するだけでなく、ご利用児の個別支援計画に基づいた必要な取り組みの方法について検証し、それぞれの意見を考察し合いながらその都度支援を改良している。	定期的に研修をおこなうだけでなく、外部の研修に参加する機会を適宜設けることでスタッフそれぞれの知識を高め、支援に生かしていけるよう取り組みを進めていく。また、事例検討やインシデントといったご利用児お一人おひとりの支援について検討するミーティングをおこなうことでよりよい療育を共有していく。
3	定期的に「保護者向けの勉強会」を開催し、福祉サービスについて仕組みを知ったり理解を深めたりする機会を提供していること。	同じ法人の他事業より講師を招き、学齢期のご家族にとって将来に向けて必要な情報を提供している。今年度は、将来の生活の場をテーマとし、学齢期から意識して取り組んでおきたいことなどについても学ぶ内容を提供した。	「保護者向けの勉強会」の参加者へアンケートをおこない、感想や今後おこなってほしいテーマや希望を伺い、今後も法人内にとらわれず講師を招いていくことも検討する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	記録のICT化が進んでいないこと。	ICT化へ向けての具体的な計画が不十分であることや設備投資に限りがあるため。また、長年記録を手書きしてきた職員の中には入力業務への不安を持っている人もいるため。	請求業務についてはICT化したが、未だ日々の記録については毎日全ご利用児分を専門職や児童指導員で手書きにておこなっている。記録業務を効率化できるよう具体的な計画を検討する。同時に、記録入力について不安がある職員に対する丁寧な引き継ぎをおこなっていく。
2	送迎の時間帯や範囲が限られていること。	送迎車の台数に限りがあることや、ご利用児の安全確保を担保した人員確保の観点から全ての下校時間や地域へ送迎をおこなうことは難しい。	業務のICT化を進めることで時間や人員にゆとりをもたせ、送迎に必要な人員確保を検討していく。
3	他事業所との繋がりが弱いこと。	日々各ご利用児や保護者の方々とやりとりしていく中で必要に応じて計画相談や他事業所との連携はおこなっているが、さらに当所から他事業所へ積極的に情報を求めることで、より支援に繋げるヒントを得ることができると考える。	学校の様子を見学させていただくことや他事業所への見学等計画的に年間の業務予定に組み込むことで、定期的な訪問や電話でのやりとりをおこなえるよう検討していく。